

ふくしまスタディツアー2021～原子力災害後を共に生きる～

募集要項

【主催】

大阪大学大学院人間科学研究科附属未来共創センター（未来共生プログラム）

大阪大学社会ソリューションイニシアティブ(SSI)

企画趣旨

東日本大震災から10年が過ぎました。津波被災地の住まいとまちの復興、産業・生業の再生は概ねの事業が完了しています。発災直後47万人に達した避難者は、2021年8月現在約4万人となり、福島第一原発事故の中心地である福島県の避難者数は約3.5万人と全避難者の88%を占め、その内27,998人は県外で避難生活をおくっています。

一方で避難指示解除11市町村における平均居住率は31.1%とまだ低く(2021.03.03 福島民友)、農業、漁業を中心に風評被害も続いています。原子力災害の被災者は生活再建の見通しが立たず、復興にはまだまだ長い時間を要するといえますが、原子力災害の被災地の状況や避難者についてメディアが取り上げる機会は減り、国民の関心は低下しており、原子力災害そのものの風化が懸念されます。

このような背景を踏まえ、福島第一原発事故の被災地の「今」を知り、多様な被災者の「今」を聴き、原子力災害後を共に生きる私たちは、いかにあるべきか考えることを目的にスタディツアーを実施します。

1. 日程

- 事前学習 ①10月18日(月)17:00~20:30@人間科学研究科東館207
②10月23日(土)14:00~16:30@オンライン
③10月29日(金)17:30~19:30@先端医療研究棟(CoMIT)演習室1.2
- 現地訪問 2021年11月3日(祝)~5日(金)(宿泊場所は福島県いわき市、双葉町)
★旅費は大学がすべて負担
- 事後学習会 11月18日(木)17:30~20:00@人間科学研究科北館2階ラーニング・commons
報告会(公開)11月29日(月)18:00~19:30@人間科学研究科東館207

2. 内容

【事前学習】

- ① 福島第一原発事故の概要説明、参考図書の紹介、ドキュメンタリー映画「福島は語る」の鑑賞
- ② 災害と福祉のまちづくりセミナー「原子力災害とマイノリティ」(オンライン)
- ③ 福島の復興について(福島県庁の方にお話を伺う@オンライン)

【現地訪問】

1日目

- ・被災者の「今」を聴く①(富岡町民に町内をご案内いただく)
- ・被災者の「今」を聴く②(いわき市民の方のお話を聞く)
- ・原子力災害考証館の見学

2日目

- ・東京電力 廃炉資料館(富岡町)、福島第一原発廃炉作業(大熊町・双葉町)の見学
- ・東日本大震災・原子力災害伝承館(双葉町)の見学

3日目

- ・双葉町内の視察と復興について(双葉町役場の方から)

・被災者の「今」を聴く③（双葉町民の方のお話を聴く）

・全体ふりかえり

【事後学習会・報告会】

・「ひとと原発～失われたふるさと」鑑賞後、「復興」についてのディスカッション

・報告会では、事前学習、現地訪問、事後学習会を通じて学んだことを5分程度のプレゼンをしてもらいます。報告会は公開（オンライン）で行います。

*内容は変更される場合があります。ご了承ください。

3. 募集対象・人数 人間科学研究科院生5人程度、全学部生5人程度

4. 募集期間 2021年9月27日（月）～10月7日（木）

5. 結果通知 2021年10月11日（月）

5. 応募条件

原則、全行程（事前学習、事後学習、報告会を含む）に参加できる人を優先します。

志望動機（400～800文字程度）を募集期間内に提出すること。

なお、応募にあたって指導教員の許可（署名又は押印）を得てください。応募多数の場合は選抜します。

【問い合わせ・応募用紙提出先】

未来共創センター（人間科学研究科 東館105）：石塚裕子 (y-ishizuka@hus.osaka-u.ac.jp)

応募用紙はメール又は未来共創センターに提出してください。

ふくしまスタディツアー2021 応募用紙

私は「ふくしまスタディツアー」を申し込みます。

氏名 (学年・所属)	
連絡先	メールアドレスと携帯電話番号
志望動機	
指導教員による 承認(署名又は 押印)	上記の所属学生が「ふくしまスタディツアー2021」に参加することを許可します。 <p style="text-align: right;">印</p>